

## 薬剤師、薬局・薬店も存在しない離島における医薬品適正使用推進プログラムの開発

調査研究者氏名 一般社団法人 長崎県薬剤師会理事 平山匡彦  
共同研究者 澤田康文、三木晶子、佐藤宏樹、堀里子  
宮崎長一郎、北原敏弘、吉谷清光、嵩下賢、井上広平、鈴木慎太郎  
(〒852-8104 長崎県長崎市茂里町 3 番 18 号 電話番号 095-847-2600)

### 要旨

【目的】長崎県五島市をモデル地域として、薬局・薬店がなく薬剤師も存在しない二次離島(大離島の周囲に点在する小離島)において、薬剤師が定期的に直接島を訪問し、一般用及び医療用医薬品の情報提供を継続実施することで、二次離島・僻地地域の住民のニーズに即した医薬品の適正使用のための、最適な一般用医薬品の供給方法・管理体制および情報提供のあり方について調査研究をし、離島及び僻地での薬剤供給と医薬品情報提供による、医薬品の適正使用推進プログラムの提案を目的とする。

【方法】平成 25 年 4 月～11 月の期間、長崎県五島市の二次離島の 11 か所の地域で「お薬説明会・相談会」を開催し、説明会前後で、薬剤師の認識度や医薬品の説明について、更に薬剤師に要望する点などのアンケート調査を実施した。この「お薬説明会・相談会」及びアンケート調査は、平成 24 年にも実施しており、本調査では、二次離島居住者を対象とした「お薬説明会・相談会」を継続して実施することによって、二次離島居住者の薬剤師に対する意識変化、信頼関係構築のための方法の可否、二次離島居住者が薬剤師に対して要望する内容の変化等を評価項目とする。なお、二次離島居住者と一次離島居住者との対比を示す為、一次離島においても同様の「お薬説明会・相談会」及びアンケート調査を行った。

【結果】二次離島居住者の事前アンケートでは、「薬剤師という仕事は知っているが仕事の内容についてはよくわからない」とした回答が 21.3% と多かった。また、「薬(全般)の説明は誰から聞くのがわかりやすいと思うか」という質問に対して、説明会以前は、半数以上の者が「医師」と回答し、「薬剤師」と回答したものは 31.3% であったが、説明会終了後には「薬剤師」と回答したものが 39.5% と「医師」の 38.0% よりも多く、説明会に 2 回参加した者では、47.9% と、約半数が「薬剤師」と回答するに至った。また、今後、薬剤師に期待することとして、「定期的なお薬説明や相談会」をあげる者が多く存在し、薬剤師による医薬品に関する情報提供についての要望が多かった。

【考察】本研究の結果から、今後も、二次離島居住者に対する「お薬説明会・相談会」を継続して実施することにより薬剤師に対する意識を変化させ、薬剤師と離島住民との信頼関係を構築できること、さらに、構築された信頼関係は、医薬品に関して「薬剤師」に相談することが有効であり、医薬品を適正に使用するためには「薬剤師」という職種が必要であることを認識させうることが示唆された。二次離島居住者に「かかりつけ薬局・薬剤師」を持ってもらうことで、かかりつけ薬局に保管する「薬歴」と二次離島居住者が保有する「お薬手帳」に基づく情報交換を行い、医薬品や健康に関する情報を共有することが、「かかりつけ薬局・薬剤師」を活用した離島・僻地地域居住者への医薬品適正使用につながると考える。

## 1. 調査研究目的

平成 22 年、我々は、長崎県の離島をモデル地域として、離島・僻地の居住者が、どのような方法での一般用医薬品の供給や情報の提供を求めているのかということについて調査研究を行うためにアンケート調査を実施し<sup>1,4)</sup>、更に、「公益財団法人一般用医薬品セルフメディケーション振興財団」の調査・研究助成を受け、平成 23 年度に実施した、「離島における一般用医薬品使用実態・ニーズ調査と医薬品供給・管理・適正使用推進への提案(二次離島訪問調査)」の中で、二次離島における医薬品の適正使用推進の為に、二次離島居住者を対象とした、薬剤師等専門家による医薬品等に関する情報提供や、一般用医薬品の供給を行う活動を継続的に実施することにより、二次離島居住者に「薬剤師」という職能を認識してもらい、離島住民による医薬品使用に「薬剤師」が介入することのメリットについての理解を得ることが、大きな課題であるとした<sup>2,3)</sup>。そしてその為に二次離島において、薬剤師による定期的な「お薬説明会」を実施し、更に個別に医薬品や健康に関する相談会を開催し、また必要であれば個人のお宅まで足を運び医薬品の保管や服薬の管理を実施することを提案した。

そこで、実際に二次離島居住者を対象とした「お薬説明会・相談会」を継続的に実施することによって、二次離島居住者の薬剤師に対する意識を変化させ、信頼関係が構築できるか、或いは二次離島居住者の薬剤師に対する要望が変化するかを調査した。さらには、「かかりつけ薬局・薬剤師」を活用した離島・僻地地域居住者への医薬品適正使用の為に医薬品の供給方法・管理体制および情報提供のあり方について提案することを目的とする。本研究における成果は、離島だけでなく日本に点在する僻地の薬剤供給と医薬品情報提供を隘路無く推進するためにも有用な示唆を与えると期待される。

## 2. 調査研究方法

### 2-1. 用語の定義

長崎県五島市には、平成 25 年 10 月末現在、11 の有人島がある。これらの島のうち、福江島と奈留島のみ「薬局・薬店」が存在している。本研究においては、「一次離島」・・本土との直接的な移動手段があり、薬局や薬店があるような大離島（福江島、奈留島及び島山島）、「二次離島」・・本土への直接的な移動手段がなく、薬局・薬店がないような、大離島の周辺に点在し「離島の中の離島」とも表現される小離島（前島、久賀島、蕨小島、椛島、赤島、黄島、黒島及び嵯峨島）と定義した。なお島山島には薬局・薬店が存在しないが、福江島と橋で結ばれていることから、本研究では一次離島区分に含めた(図. 1)。但し、平成 25 年 10 月末時点で、一次離島の中の福江島には保険薬局はあるが、奈留島には存在しない。また、二次離島の久賀島と椛島には薬局や薬店は無いが、診療所が存在し、赤島と黄島、嵯峨島には、定期的に医師による診療が行われている。なお、前島、蕨小島、黒島では診療は行われていない。

### 2-1. 調査の方法

五島市より、二次離島の地区老人会、及び町内会に対し「お薬説明会・相談会」開催に関する通知を行い、更に、薬剤師会から老人会長及び町内会長に対し、地区居住者に対する参加要請に関する依頼文書とポスターを送付し、地区の広報を通じて開催の案内と、地区会場へのポスター掲示によって地区住民への参加要請を行った。「お薬説明会・相談会」は、各地区の住民センター等において、約 2 時間程度、医薬品に関する説明をし、質問や相談に応じた。説明会に、初めて参加する者には、説明を行う前に「事前アンケート」を記入して頂き、説明会終了後には、参加者全員にアンケート用紙に記入して頂いた。アンケート用紙の内容は以下の通りである。

#### 「事前アンケート」

- ・ 年齢・性別
- ・ 薬（全般）の説明は誰から聞くのがわかりやすいか
- ・ 薬剤師の仕事として、知っている内容について

#### 「説明会終了後アンケート」

- ・ 年齢・性別
- ・ 薬剤師会開催のおくすり説明会に参加するのは何回目か
- ・ 今回のおくすり説明会の話は理解できたか
- ・ 今後、説明会でどのような話を聞いてみたいか
- ・ 病院・診療所からの薬の説明は誰から聞くことが多いか
- ・ 病院・診療所からの薬について誰に質問することが多いか
- ・ 病院・診療所以外からの薬は誰の説明を聞いて買っているか
- ・ 病院・診療所以外からの薬について誰に質問することが多いか
- ・ 薬（全般）の説明は誰から聞くのがわかりやすいか
- ・ 薬剤師の仕事として、知っている内容について
- ・ 今後、薬剤師に対してやってもらいたい事や、要望について
- ・ 薬に関して常日頃から疑問に思っていることについて

これらの説明会及びアンケート調査は、二次離島居住者との比較を目的として、一次離島においても同様に実施した。また、「おくすり説明会・相談会」を継続実施することで、アンケートの回答に現れる変化を確認するため昨年に続き2年目も同調査を実施した。

なお、二次離島居住者には高齢者が多く、アンケート用紙を自分で読んで記入することが困難なものが多いことから、そのような場合には、薬剤師が設問を読み上げ、説明をしながら、代わりに記入することで補った。なお、平成25年10月末の五島市内の一次離島及び二次離島の人口を表1に、そして、平成25年の「お薬説明会・相談会」の開催実績を表2に示す。

### 3. 調査研究成果

#### 3.1 アンケート回答者の基礎情報

二次離島の「お薬説明会・相談会」の際の、説明会に初めて参加した者の「事前アンケート」及び、説明会終了後のアンケートの回答者の基礎情報を表3に、一次離島の説明会時の、事前アンケートと終了後のアンケートの回答者の基礎情報を表4に示す。なお、二次離島の「お薬説明会・相談会」は2年目である為、説明会に初めて参加した者と2回目の者とを分けて示した。

二次離島のアンケートの回答者は、事前アンケート（n=61）において男性が45.9%、女性が54.1%で、終了後アンケートは、説明会に1回参加した者（n=71）が男性42.3%、女性が57.7%、説明会に2回参加した者（n=48）が、男性43.8%、女性56.2%と、いずれも女性の方が多く、年齢層は70歳以上の高齢者が半数以上であった。

#### 3.2 アンケート結果

##### 1) 薬の説明は誰から聞くのが分かりやすいか

「薬の説明は誰から聞くのが分かりやすいか」ということについて、二次離島居住者では、説明会参加以前（n=61）は、「医師」と回答したものが55.7%と半数以上を占め、「薬剤師」と回答した者は31.1%であったが、説明会終了後は、「医師」と回答した者は、説明会1回参加者（n=71）が38.0%、

2回参加者(n=48)が37.5%であり、「薬剤師」と回答した者は、説明会1回参加者(n=71)が39.5%、2回参加者(n=48)で47.9%であった(図2)。また、一次離島の奈留島では、事前アンケート(n=31)では、「医師」と回答した者が74.2%、「薬剤師」と回答した者が22.6%であったが、説明会終了後(n=27)は、「医師」と回答した者が63%で、薬剤師と回答した者が14.8%であった。また、福江島では、事前アンケート(n=14)で「医師」と回答した者が7.1%、「薬剤師」と回答した者が92.9%であり、終了後(n=13)は、「医師」と回答した者15.4%、「薬剤師」と回答した者76.9%であった。なお、二次離島居住者では、少数ながらも「看護師」と回答した者が存在したが、一次離島居住者では存在しなかった。(図2,3)

## 2) 薬剤師の仕事として知っている内容

「薬剤師の仕事として知っている内容」について尋ねたところ、二次離島では全ての群において、薬剤師の仕事の内容についての認識度は、説明会前よりも説明会終了後の方が高くなり、「薬剤師の仕事の内容についてはよくわからない」と回答する者も減少した(図4)。

また、一次離島でも同様の調査を行ったが、「薬剤師という職業を初めて知った」とするものは、説明会以前よりも終了後の方が減少した(図5)。

## 3) 病院・診療所の医薬品と一般用医薬品についての説明と質問の相手

病院や診療所の医薬品、或いは一般用医薬品について、誰から説明を聞くか、更に誰に質問するかというアンケート調査の回答として、二次離島居住者の説明会参加1回の者と2回目の者に分けて表5に示した。その結果、二次離島居住者では、1回参加した者も、2回参加した者も、「病院・診療所の薬」は、説明を聞く相手も、質問をする相手も「医師」とした者が最も多く、「一般用医薬品の説明」に関しては、「薬は飲んでない」とするものが最も多いが、薬を飲んでいるものでは、「薬局薬剤師」と回答した者が最も多く、説明会の参加の回数によって、変化は見られなかった。また、一次離島では、初めての開催だった為、2回参加した者はいなかったが、それぞれ誰に聞くか、或いは、誰に質問するかということについて同様の質問した結果を表6に示した。その結果、奈留島では、病院や診療所の薬も、一般用医薬品についても、「医師」と回答した者が最も多かった。更に、福江島においては、病院や診療所の薬に関しては「薬局薬剤師」に説明を聞いたり、質問する者が最も多く、一般用医薬品については、「ドラッグストア」が最も多く、次いで「薬局薬剤師」であった。

## 4) 説明会の内容はよくわかったか

「説明会の内容はよくわかったか」という質問の回答を表7に示す。

二次離島では、説明会に初めて参加した者(n=71)が85.9%、2回目の者(n=48)が81.3%とどちらも8割以上の者が「説明会の内容はよくわかった」と回答し、「まあまあわかった」と合わせると、9割以上であった。また、一次離島でも、「説明会の内容はよくわかった」と、「まあまあわかった」と合わせると9割以上であった。

## 5) 今後、説明会で聞いてみたい内容

今後、説明会で聞いてみたい内容としては、二次離島では説明会に初めて参加する者は、「薬の効果について」と「薬とサプリメントとの飲み合わせ」が共に最も多く、参加2回目の者は、「薬の効果について」と「薬の副作用について」が共に多かった。一次離島では、「薬とサプリメントの飲み合わせ」或いは「薬の副作用について」が多かった(表8)。

#### 6) 今後、薬剤師に期待すること

今後、薬剤師に期待することとして多かった項目は、二次離島では「定期的なお薬説明会や相談会」次いで「病院や診療所でもらう薬の説明」であり、一次離島の福江島も同様の結果となったが、保険薬局が存在しない奈留島においては、「病院や診療所でもらう薬の説明」が最も多かった(表 9)。

#### 7) 薬に関して疑問に思っていること

「薬に関して日頃から疑問に思っていること」についての自由記載には、医薬品やサプリメントの副作用や相互作用に関する不安がみられ、医薬品に関する説明会や相談会に関する要望もみられた(表 10)。

#### 8) 説明会終了後、参加者より出された質問

「お薬説明会」終了後、参加者より出された質問等を表 11 に示した。質問の内容としては、医薬品の服用方法や、医薬品と食品等との飲み合わせについて等、様々な質問や意見があった。

#### 9) お薬相談会で明らかとなったインシデント事例

「お薬相談会」で明らかとなったインシデント事例として、カプセルを開けて服用していた事例や、水なしで医薬品を服用する事例など副作用や事故に結びつく事例、更には、実際に副作用と考えられる事例などがみられた(表 12)。

## 4. 考察

### 4-1. 参加者の基本状況とお薬説明会・相談会への反応について

二次離島は高齢化が顕著であり、若い層が少ないということはあるが、お薬説明会の参加に関しては、特に高齢者が多く、若い層の者の参加が少ない。これは、二次離島の若い層の者の医薬品の利用率が低く<sup>1,2,3,4)</sup>、もともと医薬品に対する意識が低いことが一因と考えられる。

また、参加者全体 (n=159) の説明会への反応は、9割以上の者が説明会の内容は理解できたと回答し(表 7)、今後、薬剤師に期待することとして、「定期的なお薬説明会や相談会」を選択したものが、説明会に1回参加したもので47.9%、2回参加した者で70.8%と多くなっていること(表 9)、更には、「お薬説明会・相談会」の開催に関する要望や、具体的な説明会の内容に関する要望も多数あったことから(表 10, 11)、回数を重ねるごとに、「お薬説明会・相談会」に関する関心が高まって行くことが示唆された。

### 4-2. 薬剤師に対する認知度

平成23年の二次離島訪問調査において、多くの二次離島居住者が、薬剤師という職業を認識できなかったことから予想はできていたが<sup>2,3)</sup>、説明会の事前アンケートで、「薬剤師という仕事は知っているが仕事の内容についてはよくわからない」とするものが21.3%と、薬剤師の仕事を認識できていない者が2割以上いることが明らかとなった。但し、一次離島においても認識できていないものは存在しており、薬剤師の職種を認識できていないことが、二次離島に限定されることで無いことが示唆された(図 4, 5)。このように薬剤師の職種が認識されていないということは、地域で活動する薬剤師が猛省すべき点であろう。

また、薬剤師の仕事の内容としては、説明会に参加する前よりも説明会終了後が、多くの項目において認知度が高くなったこと、更には、「薬剤師の仕事の内容についてはよくわからない」とする者が、説明会に参加する前よりも参加後の方が少なくなったということは、「お薬説明会・相談会」を開催することで、二次離島居住者に対して、薬剤師という職種を認識させることができると示唆され(図 4)、また、一次離島でも同様の結果が示されたことは、薬剤師が存在するような地域においても、「お薬説明会・相談会」を開催することで、薬剤師の職種を認識させることができることが示唆された。

### 4-3. 薬の説明は誰から聞くのが分かりやすいか

説明会開催前は、「薬(全般)の説明は誰から聞くのがわかりやすいと思うか」という質問に対して、半数以上の者が「医師」と回答し、「薬剤師」と回答したものは31.1%であった。これは、多くの二次離島には診療所が設置され、医師による診療が行われているものの、薬剤師は存在しない為に、投薬は医師もしくは看護師が行っている。また、二次離島には、薬局も店舗販売業も無い為に、一般用医薬品使用時にも、薬剤師等専門家から直接、医薬品の説明を聞くこともない。つまり、二次離島居住者にとって、薬剤師が身近な存在でなかったことが一因と考えられる。しかし、説明会に1回参加した者は、「薬剤師」と回答したものが39.5%と「医師」よりも多くなり、更に、2回参加した者は、更に増えて47.9%と、約半数の者が、薬の説明は薬剤師から聞くのが分かりやすいと回答した(図 2)。つまり、二次離島における「お薬説明会・相談会」を継続することで、薬剤師から薬の説明を受けたいとするものが増加することが明らかとなった。しかし、病院や診療所から処方された医薬品に関して、誰から説明を受けるか、或いは、誰に質問するかという問いに関して、二次離島居住者の約半数の者が「医師」と回答し、これは、説明会を重ねても変化はない。これは、薬剤師から説明を受ける方が分かりやすいが、実際に島には薬剤師がおらず、説明を受けることも、質問を受けることもできない為の結果と考えられる。また、同様の調査を一次離島で比較すると、

一次離島の福江島では、その多くが、薬の説明を薬剤師から聞くのが分かりやすいと回答しているが、薬剤師は存在するが、保険薬局がない奈留島においては、薬の説明を医師から聞くのが分かりやすいと回答する者が6割以上である。更に、病院・診療所の薬についての説明を誰から聞か、或いは誰に質問するかという問いに対して、福江島では、半数以上が「薬局薬剤師」と回答したが、奈留島では、半数以上が医師と回答し、薬剤師と回答した者は2割にも満たない。そして、この傾向は、一般用医薬品の説明を誰から聞か、或いは誰に質問するかという質問の回答も同様の結果であることから(表6)、今後、地域の薬剤師には、一般用医薬品に関する知識は当然として、病院・診療所から出される医薬品や、健康全般に関する知識が求められていると示唆される。

また、継続して説明会に参加した居住者が、薬剤師に期待することとして、「定期的なお薬説明会や相談会」を選択した者が7割を超えていること、更には、薬に関する話を聞いてくれる存在を求める意見や、説明会に対する要望があげられたことから(表9, 10, 11)、薬剤師等専門家が、二次離島居住者の身近な存在となり、二次離島居住者が医薬品等に関する疑問を持った場合、いつでも質問に答えられる存在になることが必要であろう。

## 5. まとめ

二次離島には、薬局や一般販売業が無く、薬剤師等専門家が存在しない。また、二次離島居住者の2割の者は、島を離れることがほとんどない為、薬剤師等専門家と会う機会が少なく<sup>3)</sup>、二次離島居住者には、薬剤師という職種を認識できていないものが数多く存在している。そのような理由から、お薬説明会以前は、薬剤師の仕事の内容についてはよくわからないと回答した者も数多く存在した(図4)。しかし、二次離島において、薬剤師による「お薬説明会・相談会」を継続して開催することによって、薬剤師という職種を認識させることができるということ(図4)、更には、薬の説明は薬剤師から聞くのが分かりやすいと感じる者が多くなること(図2)、また、今後も「定期的なお薬説明会や相談会」の開催を求めることが多数存在したことから(表9, 10, 11)、今後も、薬剤師が、二次離島において二次離島居住者を対象とした「お薬説明会・相談会」を継続的に開催することで、二次離島居住者の薬剤師に対する意識を変化させることができ、信頼関係が構築できると示唆された。

過去の調査において、二次離島居住者の中には、医薬品の情報がない為に一般用医薬品を服用していないと言った事例や<sup>1,2,3,4)</sup>、一般用医薬品を使用する際、医薬品の服用方法や副作用などの情報を「入手しない」と回答した者も66.7%と多く存在していることが明らかとなっている<sup>2,3)</sup>。しかし、本調査において、医薬品に関する数多くの疑問を持ち、薬剤師に対して数多くの質問をしていることから、二次離島居住者は、医薬品の適正使用や副作用等の情報を必要としていないわけではなく、質問をしたくても、薬剤等専門家がない為に、質問ができる環境になかったことが想定された。従って、今後、二次離島において、薬剤師等専門家による、二次離島居住者を対象とした「お薬説明会・相談会」を継続的に実施することで、二次離島居住者が、医薬品の適正使用を意識するようになり、且つ、二次離島居住者と薬剤師等専門家との信頼関係を構築することが可能であれば、本土や一次離島に、医薬品について相談できる「かかりつけ薬局」や「かかりつけ薬剤師」を持ち、二次離島居住者と「かかりつけ薬局」或いは「かかりつけ薬剤師」との情報を共有することが可能になるのではないかと考えられる。そして、そのような信頼関係が構築できれば、その「かかりつけ薬局」に保有する二次離島居住者の「薬歴」と、二次離島居住者の「お薬手帳」を有効活用し、現在飲んでいる医薬品と現状を照らし合わせることで、医療用医薬品や一般用医薬品の適正使用のアドバイスにつながると考えられる。現状では二次離島居住者に対して、緊急に医薬品を供給することは困難で、二次離島居住者からの期待も高くないが(図9)、それぞれが保有する情報を有効活用して、一次離島や本土から二次離島の居住者に対して一般用医薬品を送ること、或いは二

次離島で入手可能な配置薬等の一般用医薬品の服用アドバイスも可能となる。

但し、二次離島では「薬歴」や「お薬手帳」に関する情報が無く、「お薬手帳」を入手することも困難なことから、「おくすり説明会・相談会」の際には、「かかりつけ薬局・薬剤師」或いは「薬歴」や「お薬手帳」に関する説明をし、「お薬手帳」を持っていない居住者には配布などして活用してもらうことが必要になる。

今後、二次離島居住者に対する「おくすり説明会・相談会」を継続的に実施し、二次離島居住者と薬剤師の信頼関係を構築することで、「かかりつけ薬局・薬剤師」との「薬歴管理」、「お薬手帳」に基づく情報交換を行い、医薬品や健康に関する情報を共有することが、二次離島居住者の医薬品の適正使用に有効であり、更には「かかりつけ薬局・薬剤師」を活用した、離島や僻地地域居住者への医薬品適正使用につながると考えられる。そして、これらのプログラムを全国各地で推進していくことが、離島のみならず、日本全国に点在する、僻地地域の薬剤供給と医薬品情報提供を隘路なく推進するための有用なプログラムにつながるものとする。

## 6. 調査研究発表(口頭発表予定)

平山匡彦<sup>1)</sup>、鈴木慎太郎<sup>1)</sup>、井上広平<sup>1)</sup>、宮崎長一郎<sup>1)</sup>、嵩下賢<sup>2)</sup>、吉谷清光<sup>3)</sup>、佐藤宏樹<sup>4)</sup>、堀里子<sup>4,5,6)</sup>、三木晶子<sup>4,6)</sup>、澤田康文<sup>4,6)</sup> 1) (一社)長崎県薬剤師会、2) 五島保健所、3) 五島市役所、4) 東京大学大学院薬学系研究科、5) 東京大学大学院情報学環、6) NPO DLMセンター、“離島における医薬品の適正使用の実態と情報提供に関する研究” 第 17 回 日本医薬品情報学会学術大会：2014 年 7 月 13 日

## 7. 引用文献

- 1) 平山 匡彦，田中 秀和，鈴木 慎太郎，大村 平自，永瀬 正義，作元 誠司，菅原 正典，北原 敏弘，宮崎 長一郎，山下 登，吉谷 清光，三木 晶子，佐藤 宏樹，堀 里子，澤田 康文，“離島における一般用医薬品のインターネット購入に関する意識調査- インターネットを使用する居住者を対象として-”，薬学雑誌，Vol. 131，783-799 (2011).
- 2) 平山 匡彦，田中 秀和，鈴木 慎太郎，井上 広平，吉谷 清光，宮崎 長一郎，佐藤 宏樹，堀 里子，三木 晶子，澤田 康文，“離島における一般用医薬品使用実態・ニーズ調査と医薬品供給・管理・適正使用推進への提案”，平成 23 年度 一般用医薬品セルフメディケーション調査研究・啓発事業等報告書(N0.6)94-112.
- 3) 平山 匡彦，田中 秀和，鈴木 慎太郎，井上 広平，永富 亜紀，作元 誠司，北原 敏弘，宮崎 長一郎，吉谷 清光，佐藤 宏樹，堀 里子，三木 晶子，澤田 康文，“離島での対面調査から見えてきた一般用医薬品使用に関する実態と課題”，薬学雑誌，Vol. 133(8):913-922(2013) 131.
- 4) 平山 匡彦，田中 秀和，鈴木 慎太郎，永富 亜紀，作元 誠司，北原 敏弘，宮崎 長一郎，吉谷 清光，佐藤 宏樹，堀 里子，三木 晶子，澤田 康文，“離島における一般用医薬品のインターネット購入に関する意識調査-インターネットを使用しない居住者を対象として-”，医薬品情報学 15 (2) :57-63(2013)



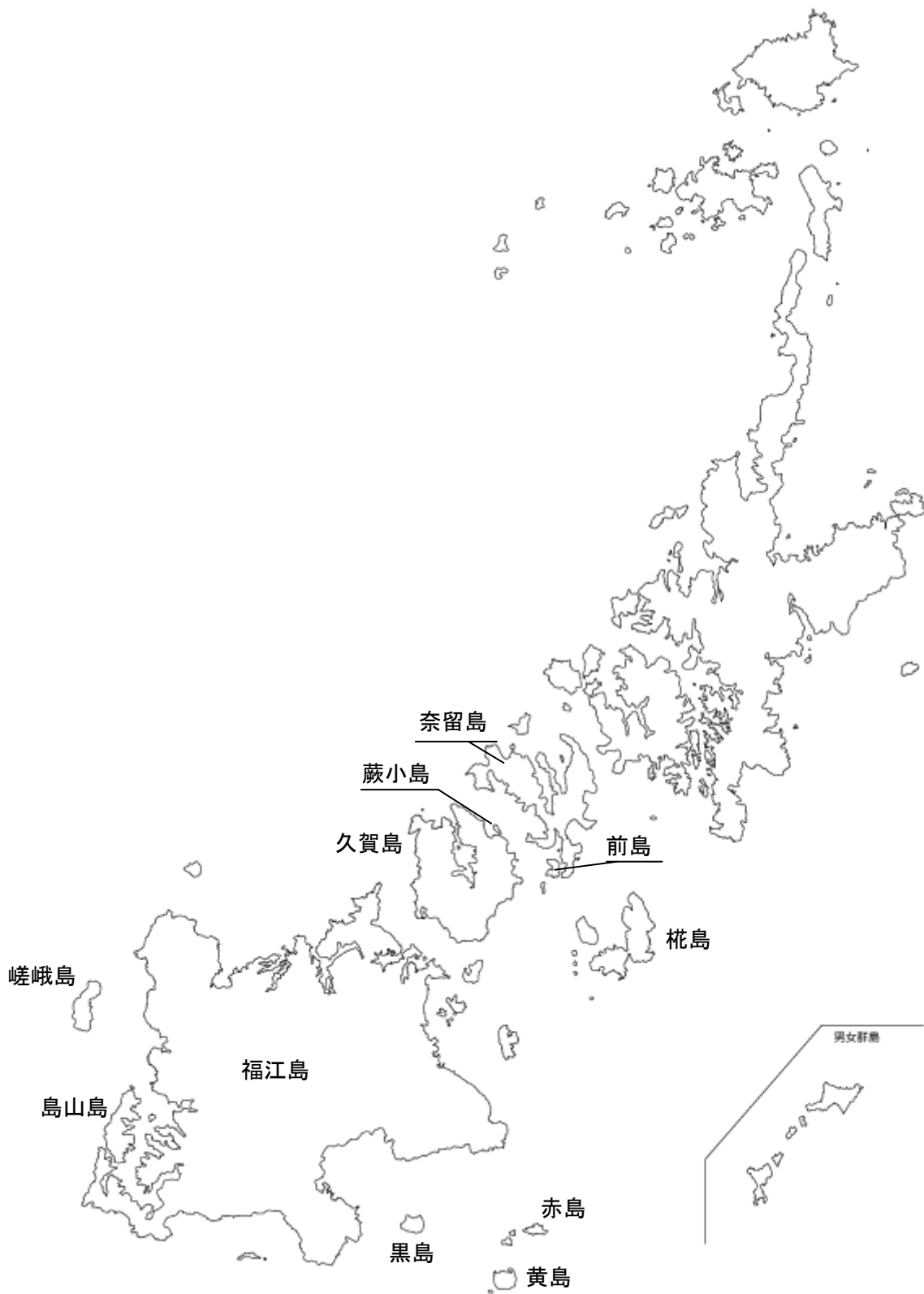


図 1. 長崎県五島市に存在する有人島

表 1. 五島市の島別人口

一次離島	人口(人)
奈留島	2617
福江島	30041
一次離島合計	39658
二次離島	人口(人)
赤島	20
黄島	48
黒島	2
前島	30
蕨小島	11
嵯峨島	185
椛島	153
久賀島	376
二次離島合計	825
五島市全体	40483

平成 25 年 10 月末現在

表 2. 説明会開催実績

一次離島	日時	開始時間	島名	会場	参加数(人)
第 1 回	2 月 20 日	19 時 ~	福江島	グループホーム	14
第 2 回	4 月 14 日	13 時 ~	奈留島	離島開発センター	35
二次離島	日時	開始時間	島名	会場	参加人数
第 1 回	4 月 14 日	10 時 ~	前島	前島集会所島	7
第 2 回	5 月 19 日	10 時 30 分 ~	久賀島	久賀町公民館	14
第 3 回	5 月 19 日	14 時 ~	久賀島	大開地区公民館	7
第 4 回	6 月 23 日	10 時 ~	嵯峨島	嵯峨島漁村センター	12
第 5 回	7 月 21 日	10 時 ~	久賀島	猪之木地区公民館	16
第 6 回	7 月 21 日	14 時 ~	久賀島	蕨地区公民館	4
第 7 回	10 月 6 日	9 時 ~	黄島	黄島住民センター	12
第 8 回	10 月 6 日	11 時 ~	黒島	黒島町内会長宅	2
第 9 回	11 月 10 日	10 時 ~	椛島	本窯ふるさとセンター	20
第 10 回	11 月 10 日	14 時 ~	椛島	伊福貴住民センター	15
第 11 回	11 月 24 日	9 時 30 分 ~	久賀島	浜脇教会集会所	15
二次離島説明会 合計					124

表 3. 二次離島アンケート回答者の基礎情報

	事前アンケート回答者 (%) (n = 61)	説明会 1 回目参加者 (%) (n = 71)	説明会 2 回目参加者 (%) (n = 48)
<b>性別</b>			
男性	28(45.9)	30(42.3)	21(43.8)
女性	33(54.1)	41(57.7)	27(56.2)
<b>年齢</b>			
30 歳～	3 (4.9)	2 (2.8)	0 (0.0)
40 歳～	2 (3.3)	4 (5.6)	0 (0.0)
50 歳～	9(14.8)	10(14.1)	3 (6.3)
60 歳～	15(24.6)	15(21.1)	12(25.0)
70 歳～	19(31.1)	22(31.0)	23(47.9)
80 歳～	13(21.3)	18(25.4)	10(20.8)

表 4. 福江島アンケート回答者の基礎情報

	福江島		奈留島	
	事前アンケート (%) (n = 14)	説明会終了後 (%) (n = 13)	事前アンケート (%) (n = 31)	説明会終了後 (%) (n = 27)
<b>性別</b>				
男性	6(42.9)	5(38.5)	9(29.0)	6(22.2)
女性	8(57.1)	8(61.5)	22(71.0)	21(77.8)
<b>年齢</b>				
20 歳～	1 (7.1)	1 (7.7)	0 (0.0)	0 (0.0)
30 歳～	5(35.7)	5(38.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
40 歳～	5(35.7)	5(38.5)	0 (0.0)	0 (0.0)
50 歳～	2(14.3)	2(15.3)	1 (3.2)	1 (3.7)
60 歳～	0 (0.0)	0 (0.0)	9(29.0)	5(18.5)
70 歳～	1 (7.1)	0 (0.0)	14(45.2)	12(44.5)
80 歳～	0 (0.0)	0 (0.0)	7(22.6)	9(33.3)

=

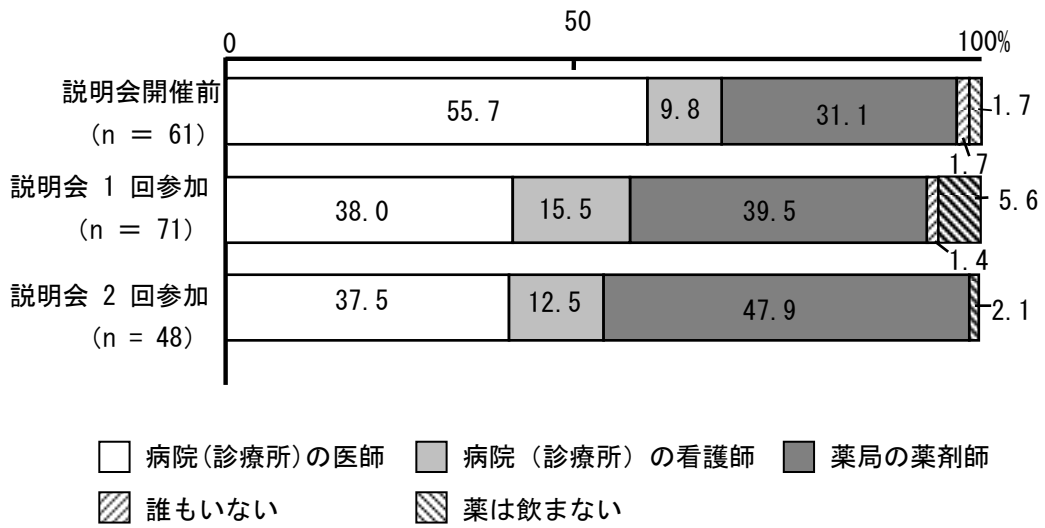


図 2. 薬の説明は誰から聞くのが分かりやすいか(二次離島)

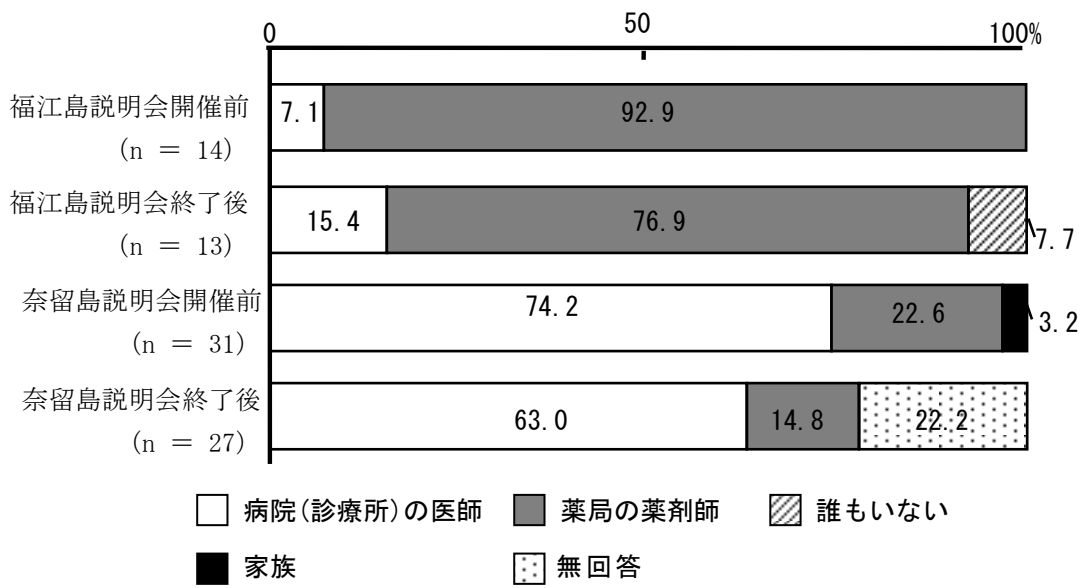


図 3. 薬の説明は誰から聞くのが分かりやすいか(一次離島)

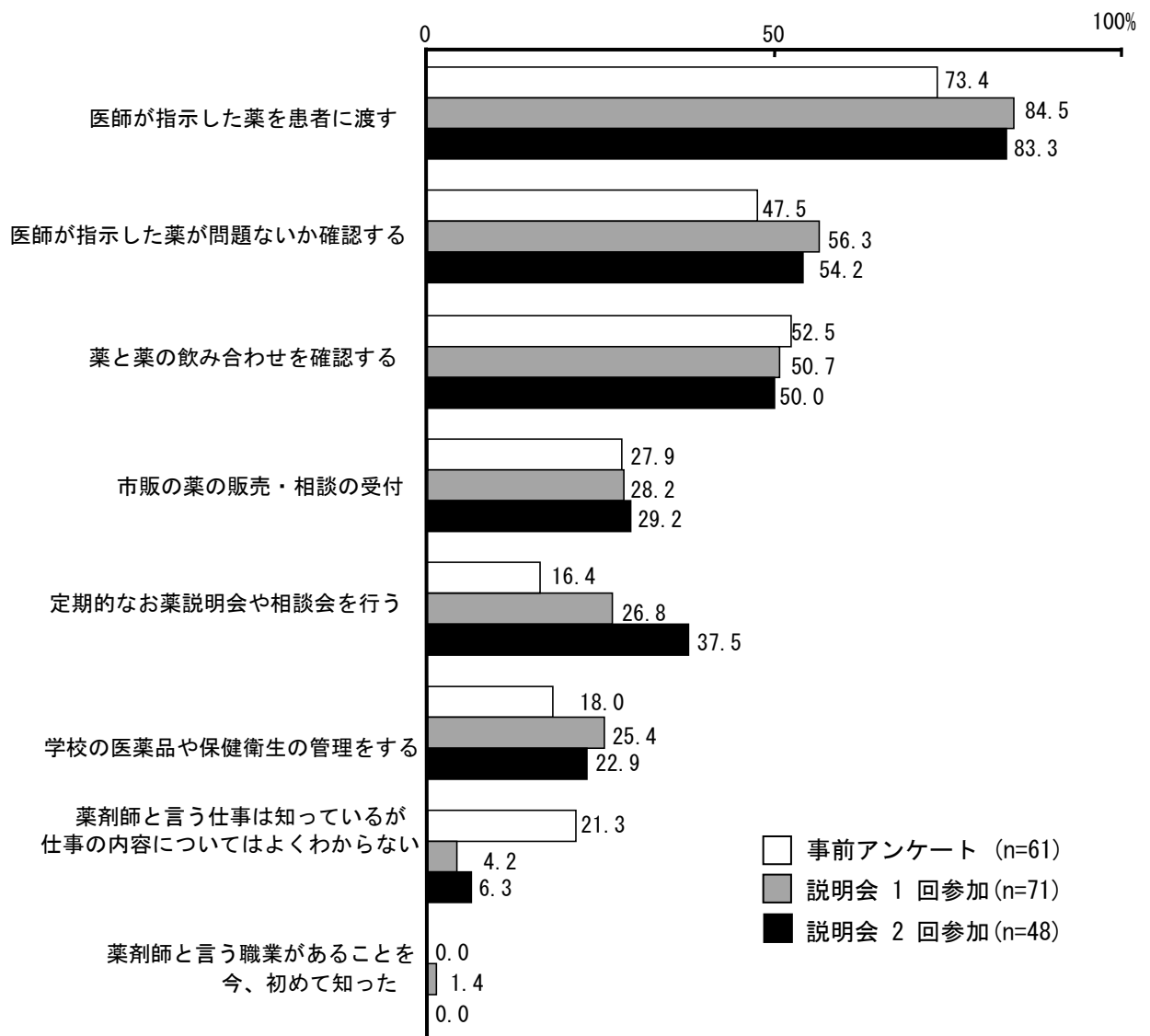


図 4. 薬剤師の仕事として知っている内容(二次離島) <複数回答>

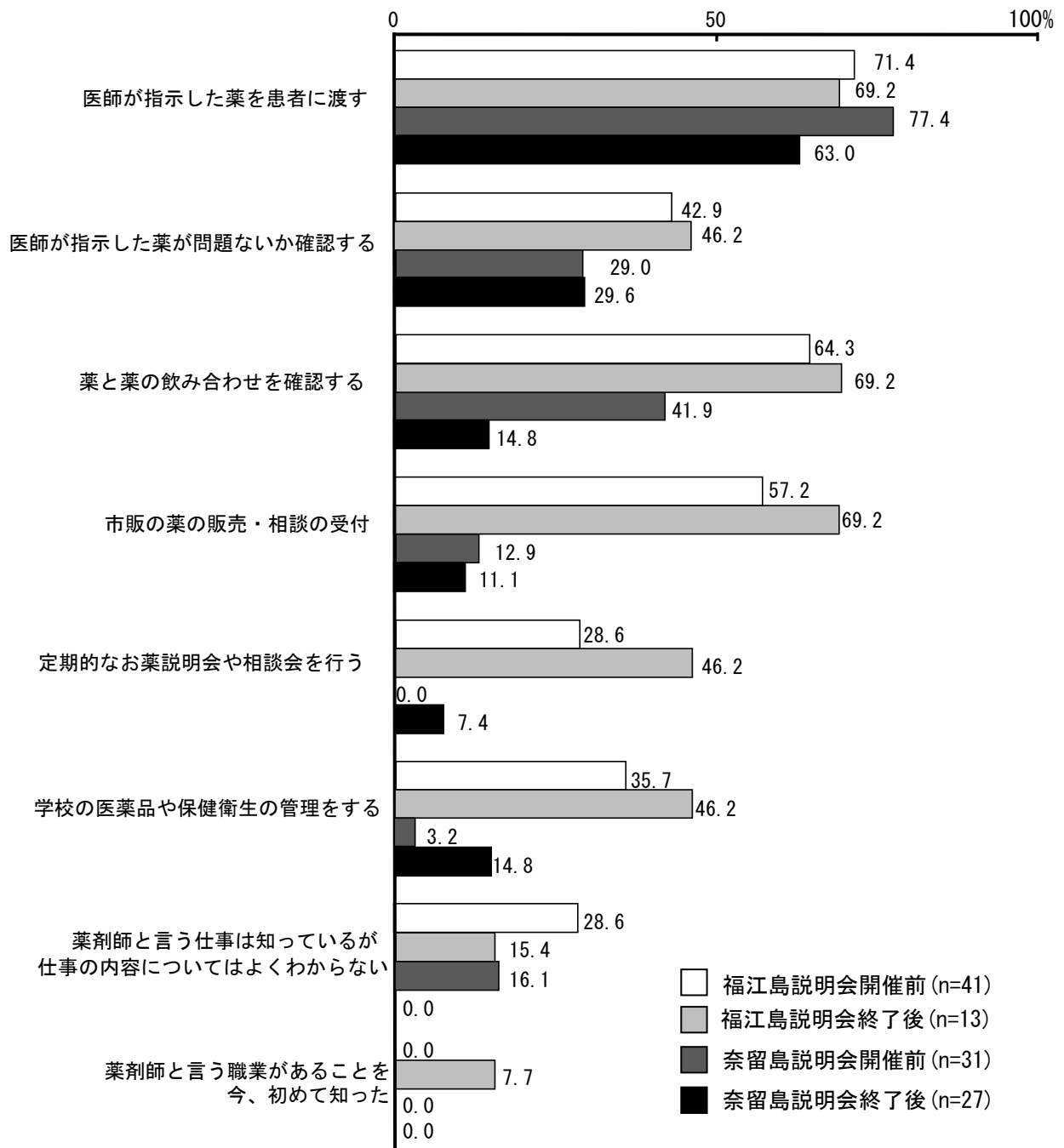


図 5. 薬剤師の仕事として知っている内容(一次離島) <複数回答>

表 5. 医薬品の説明と質問の相手(二次離島) <一つ選択>

医薬品の種類	病院・診療所の薬の説明				一般用医薬品の説明			
	誰から聞くか		誰に質問するか		誰から聞くか		誰に質問するか	
質問内容	参加	参加	参加	参加	参加	参加	参加	参加
説明会 参加回数	1 回目	2 回目	1 回目	2 回目	1 回目	2 回目	1 回目	2 回目
医師	31 43.7	27 56.3	34 47.9	29 60.4	7 9.9	3 6.3	6 8.5	1 2.1
看護師	12 16.9	7 14.6	12 16.9	8 16.7	1 1.4	0 0	2 2.8	2 4.2
薬局薬剤師	20 28.2	11 22.9	15 21.1	7 14.6	20 28.2	11 22.9	18 25.4	10 20.8
ドラッグストア	0 0	0 0	0 0	0 0	3 4.2	1 2.1	4 5.6	0 0
置き薬の人	0 0	0 0	1 1.4	0 0	4 5.6	2 4.2	2 2.8	3 6.3
知り合い	1 1.4	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1.4	3 6.3
家族	2 2.8	0 0	1 1.4	0 0	2 2.8	0 0	2 2.8	1 2.1
誰もいない	5 3.5	1 2.1	4 5.6	3 6.3	6 8.5	8 16.7	6 8.5	9 18.8
健康食品の人	1 1.4	1 2.1	0 0	0 0	0 0	1 2.1	1 1.4	0 0
飲んでいない	1 1.4	1 2.1	4 5.6	1 2.1	28 39.4	22 45.8	29 40.8	19 39.6
その他	3 4.2	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0
計	71 100	48 100	71 100	48 100	71 100	48 100	71 100	48 100

「表示値は、上段は人数（人）、下段は割合（％）を示す」

表 6. 医薬品の説明と質問の相手(一次離島) <一つ選択> 上段の数字の単位の説明がない

医薬品の種類 質問内容 島名	病院・診療所の薬の説明				一般用医薬品の説明			
	誰から聞くか		誰に質問するか		誰から聞くか		誰に質問するか	
	福江島	奈留島	福江島	奈留島	福江島	奈留島	福江島	奈留島
医師	6 46.2	17 63.0	4 30.8	15 55.6	0 0	7 25.9	1 7.7	12 44.4
看護師	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0	0 0	0 0	0 0
薬局薬剤師	7 53.8	5 18.5	8 61.5	4 14.8	5 38.5	5 18.5	5 38.5	2 7.4
ドラッグストア	0 0	0 0	0 0	0 0	6 46.2	1 3.7	6 46.2	1 3.7
置き薬の人	0 0	0 0	0 0	0 0	1 7.7	0 0	0 0	0 0
知り合い	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 3.7
家族	0 0	0 0	1 7.7	0 0	1 7.7	0 0	1 7.7	0 0
誰もいない	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 3.7	0 0	0 0
健康食品の人	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 7.4	0 0	1 3.7
飲んでいない	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0	2 7.4	0 0	2 7.4
無回答	0 0	5 18.5	0 0	8 29.6	0 0	9 33.3	0 0	8 29.6
計	13 100	27 100	71 100	27 100	71 100	27 100	13 100	27 100

「表示値は、上段は人数（人）、下段は割合（%）を示す」



表 7. 説明会の内容はよくわかったか(二次離島)

	二次離島 説明会 1 回 (n = 71)	二次離島 説明会 2 回 (n = 48)	福江島 (n = 13)	奈留島 (n = 27)
よくわかった	61 (85.9%)	39 (81.3%)	9 (69.2%)	22 (81.5%)
まあまあわかった	9 (12.7%)	9 (18.8%)	4 (30.8%)	4 (14.8%)
よくわからなかった	1 (1.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
無回答	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	1 (3.7%)

理由

<よくわかった>

- ・口頭の説明とパソコンの説明でよくわかりました。
- ・説明が分かりやすかった
- ・先生の説明がよかった
- ・カプセルのことがよくわかった
- ・初めて聞くことばかり
- ・今まで自分がしていたこと、つまり使用が全く間違っていたことがわかり、鳥肌がたちました。

本当に来てよかったというより助かった。

- ・薬の有効期間とか
- ・実験等で目に見えて分かり良かったです。

表 8. 今後、説明会で聞いてみたい内容<複数回答>

	二次離島 説明会 1 回 (n = 71)	二次離島 説明会 2 回 (n = 48)	福江島 (n = 13)	奈留島 (n = 27)
薬の効果について	27 (38.0%)	23 (47.9%)	3 (23.1%)	9 (33.3%)
薬とサプリメントの飲み合わせ	24 (33.8%)	15 (31.3%)	7 (53.8%)	10 (37.0%)
薬の副作用について	20 (28.2%)	23 (47.9%)	7 (53.8%)	8 (29.6%)
薬の飲み合わせについて	16 (22.5%)	18 (37.5%)	5 (38.5%)	3 (11.1%)
薬の飲み方について	16 (22.5%)	11 (22.9%)	3 (5.3%)	3 (11.1%)
飲む時の注意点について	11 (15.5%)	16 (33.3%)	4 (30.8%)	4 (14.8%)

<その他の記載>

- ・湿布薬の効き目について
- ・湿布には温と冷とありますが、使い分けなど
- ・市販されている健康食品について
- ・睡眠薬のやめ方について
- ・外国旅行の際の水の違い
- ・外国と日本の薬の強さの違い
- ・尿カテーテルについて
- ・ジェネリックについて
- ・市販されている健康食品について

表 9. 今後、薬剤師に期待すること（複数回答）

	二次離島 説明会 1 回 (n = 71)	二次離島 説明会 2 回 (n = 48)	福江島 (n = 13)	奈留島 (n = 27)
一般用医薬品の配達販売	8 (11.3%)	6 (12.5%)	3 (23.1%)	0 (0.0%)
定期的なお薬説明会や相談会	34 (47.9%)	34 (70.8%)	6 (46.2%)	4 (14.8%)
病院や診療所でもらう薬の説明	14 (19.7%)	11 (22.9%)	5 (38.5%)	9 (33.3%)
自宅にある薬の整理	5 (7.0%)	4 (8.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)
その他	2 (2.8%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)

<その他記載>

- ・説明を聞きたいから頻繁に来てほしい
- ・湿布の効き目、各個所への効き目
- ・湿布の効果について
- ・薬の説明会を定期的にして頂きたい。年とともに、忘れやすくなる可能性がありますので。
- ・高血圧と果物の関係を、詳しく聞きたい
- ・ジェネリック薬について説明してほしい
- ・副作用について
- ・通販のサプリメントとの副作用等
- ・一年に一回は説明会をやってほしい
- ・膝の痛みで病院に通っていますが、痛み止めの薬が効果がないような気がしてなりません。本当に効くのでしょうか。
- ・血圧の薬を飲んでいるのですが、朝忘れて飲まないときは、昼飲んでもいいですか？
- ・眠剤のやめ方について

表 10. 薬に関して疑問に思っていること(自由記載)

<p>&lt;服用している薬等の効果や服用方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・イソジンについて</li><li>・血圧の薬を飲んでいるのですが、朝忘れて飲まないときは昼飲んでいいですか</li><li>・膝の痛みで病院に通っていますが、痛み止めの効果がないような気がしてなりません。本当に効くのでしょうか.</li><li>・主人が高血圧の薬を飲んでいますが、正常に見えるのですが、やめることはできないのですね。</li></ul> <p>&lt;薬の副作用や相互作用について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・朝一回の高血圧の薬をコーヒーで飲んでいますが、薬の効果は？</li><li>・通販のサプリメントの副作用</li><li>・薬を飲んでいて眠気がある。フラツキ、眠気</li><li>・一回で多くの種類のカプセルを服用するが、副作用は出ないのか？</li><li>・免疫抑制剤を服用していますが、一生涯飲み続けなければならないので、副作用が出ないか不安。</li></ul> <p>&lt;その他&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・置き薬の有効期間が分からない</li></ul> <p>&lt;薬剤師や説明会の内容についての要望&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ジェネリックについて説明してほしい</li><li>・薬の説明をしてほしい</li><li>・高血圧の薬と果物の関係を詳しく知りたい</li><li>・副作用について(2名)</li><li>・一年に一回は説明会をやってほしい</li><li>・薬剤師がいないから聞けない(2名)</li><li>・看護師よりは、薬剤師の方が相談しやすく、説明が分かりやすい。親切。</li><li>・やはり、副作用でも、今日の説明で、かなり理解できました。心より感謝です。</li><li>・今日の先生の話が良かった</li><li>・気軽に薬に関して話を聞いてくれる方がいけばよいと思う</li></ul>
---

表 11. 説明会終了後の質問内容

<p>1) 医薬品の使用方法について</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・食前に飲む薬と食後に飲む薬は、いつ飲めばいいの？ (5名)</li><li>・漢方薬の飲み方(タイミングと、水？お湯？など)について</li><li>・坐薬の使い方について</li><li>・カプセルは、多めの水で服用しなければいけないか</li><li>・点耳薬の使い方について</li><li>・心臓の貼り薬などを頭に貼ったりしたらどうなるか</li><li>・血圧の薬を飲んでいるのですが、朝忘れて飲まないときは、昼飲んでもいいですか？(2名)</li><li>・眼軟膏と目薬の間隔はどの程度あければよいのか</li><li>・眼軟膏は、目の中に入れてよいのか</li><li>・目薬は、3滴くらい指していたがいけないのか</li><li>・塗り薬は、どの程度塗ればよいのか</li><li>・ときどきヘルペスになるので、持っているヘルペスの軟膏を使用している。汚染が心配なので、綿棒で使用しているが、どの程度使用できるのだろうか。</li><li>・食後30分とは、食事の後すぐに飲んでもいいのか</li></ul> <p>2) 医薬品の効能・効果について</p>
--

- ・点耳薬の効能効果について
- ・湿布薬の効能効果について(3名)

### 3) 食品や健康食品との飲み合わせ

- ・薬はお茶で飲んでいいのか(6名)
- ・薬は牛乳で飲んで良いか(3名)
- ・薬はコーヒーで飲んでいいのか(2名)
- ・パンを食べる時に、コーヒー、牛乳を飲むが、その後に薬を飲んでいいのか。(2名)
- ・グレープフルーツジュースを飲んではいけないのか(2名)
- ・島では、海水を淡水にして飲み水にしているが、薬に影響はないか
- ・島には水が無いので雨水をためて使っているが、水の違いによって薬の効果が変わるか
- ・服用薬とサプリメント(ヒアルロン酸)と一緒に服用してよいか
- ・薬はコーヒーで飲んでいいのか(2名)
- ・薬をお茶で飲んでいいのか(3名)
- ・血圧の薬をコーヒーで飲んでもいいか
- ・薬は水で飲まないといけないのか
- ・酒を飲んだら、睡眠薬を服用してはいけないのか
- ・薬を麦茶で飲んでダメか
- ・ミネラルウォーターで薬を飲んでもよいか(2名)
- ・晩酌をするが、薬を飲んではいけないのか
- ・鉄剤以外の薬は、お茶で飲んで良いか
- ・アデホス、パリエット、アズレングルタミン細粒を服用している。牛乳を飲んで良いか。
- ・牛乳で飲んだらダメか
- ・浄水器の水で薬を服用してよいのか
- ・アルカリイオン水で薬を服用してよいのか(2名)
- ・フランスに行ったら硬水であるが、薬を飲むにはどうすればよいのか
- ・リウマトレックス、フォリアミンを服用していて、セサミンや梅肉エキス等のサプリメントを飲んでいるが良いのだろうか

### 4) 使用している薬について

- ・血圧の薬で、まったく同じ薬を20年以上飲んでいるが、変えなくても良いのか
- ・坐薬を入れれば痛みは取れるのか
- ・睡眠薬のやめ方について教えてほしい(2名)
- ・貼り薬は、どのくらいの期間使用して良いか
- ・塗り薬は、どのくらいの期間使用してよいか

### 5) 医薬品の副作用について

- ・夜に眠れないので睡眠剤を毎晩飲んでいるが、ボケとか中毒にならないか
- ・エリスロシンをずっと服用しているが、本当に問題ないのだろうか
- ・免疫抑制剤等の薬を飲むと、顔がほてるが、そういうものなのか。
- ・薬疹が出たのに(ほかの医院で言われた)、そんな薬は出してないと言われた。
- ・うがい薬を飲んだらどうなるのか
- ・副作用のことが、今日の説明でかなり理解できました
- ・前立腺肥大の人が、風邪薬を服用してもいいのか
- ・老人は、薬の量を減らして服用することがあるのか
- ・薬を7種類も服用しているが、化学反応とかはおきないのか

### 6) 医薬品の保管について

- ・ヒートシールを切って保管してはいけないのか (2 名)
- ・目薬は冷蔵庫に入れた方が良いか
- ・目薬に期限が書いてあるが、その日付まで使用してよいか
- ・一般の薬は、使用期限いっぱいまで使用してよいか
- ・OS 1 の賞味期限について
- ・開封していない薬の有効期間は？
- ・チューブの軟膏の開封後の有効期間は？
- ・使用していない目薬は、いつまで使用してよいのか

#### 7) その他

- ・薬を買いたくても売っていない
- ・相談したくても、島には薬剤師がない
- ・他の人からもらった貼り薬は使用してもよいか
- ・前立腺肥大について
- ・寝る前にコーヒーを飲んでもいいのか
- ・お薬手帳の使い方がわからない
- ・乳がん術後の痛みについて
- ・膝の痛みで病院に通っていますが、痛み止めの薬が効果がないような気がしてなりません。本当に効くのでしょうか
- ・口内炎は、よく歯磨きをすれば予防できるのか
- ・市販されている健康食品について教えてほしい
- ・煙草の害について
- ・カネミ油症にクロレラが効果的と聞いたが、どうなのだろうか
- ・目にいいからと、タウリンを 3 万で購入させられたが、ずっと飲んでいてよいのだろうか

#### 8) お薬説明会開催について

- ・もともと島の住民は薬に関心が無いから人が集まらないが、このような説明会は、もっとみんな聞くべき。次回は、もっと呼びかけを行いたい。
- ・こんなに為になる説明会ならば、次回は、もっと人を集めてみんなで聞きたい。
- ・とても優しく丁寧に教えてくれるのでよくわかった。
- ・もっと多くの人に声かけをして、たくさんの人に聞いて欲しい。
- ・今まで自分がしていたこと、つまり使用が全く間違っていたことがわかり、鳥肌がたちました。本当に来てよかったというより助かった
- ・薬の説明会を定期的にして頂きたい。年とともに、忘れやすくなる可能性がありますので一年に一回は説明会をやってほしい
- ・説明が分かりやすかった

表 12. お薬相談会で明らかとなったインシデント事例

- ・カプセルをあけて服用した方が良いと勧められ、あけて服用していた。(7 名)
- ・カプセルの色が気持ち悪かったので、あけて中身だけ服用。
- ・錠剤を水なしで飲んでいた (4 名)
- ・多めの水で薬を飲むと、薬が薄まって効かなくなると思い、できるだけ少ない水で服用。
- ・業者の人に勧められて、薬をアルカリ温泉水 (Ph8.9) で服用している。
- ・痒みどめを、こするように擦り込んでいた。
- ・昼ご飯を食べないので、昼の薬を飲んでいない。(2 名)
- ・緑内障がどんどん悪くなっているが、安定剤は飲み続けてよいか
- ・市販の風邪薬を飲んだら小便が出なくなったことがある。(前立腺肥大用薬服用中)